

子どもたちの
「ふくしまへの想い」の実現を応援します！
チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業

「ふくしまの未来」へ つなぐ 体験応援事業

〈令和2年度〉実践事例集

福島県教育委員会

交流会を
通して、
みなさんを元気に



地域の食材を
使った健康弁当
美味しいよ



復興の祈りを
込めつつ、
福島をPR



福島の
復興・魅力を
県外へも広く発信



事業内容・実績

事業概要

東日本大震災及び原子力発電所事故から10年、本県の子どもたちは、機会を捉えて「被災地を元気にしたい」「福島を今をたくさんの人へ伝えたい」など、復興に貢献しようという想いの高まりが感じられます。本事業はその想いを具現化できる機会を提供することで、新たな段階に進み、子どもたちが主体的に復興に寄与する社会体験活動に取り組むことを通して、新生ふくしまを担うたくましい子どもたちの育成を図る事業です。

採択条件

子どもたちが主体となって自ら考え、判断し、行動を起こす社会体験活動・社会貢献活動等や地域の復興を支援する取組で、以下のいずれかに係る事業とします。

- (1) 被災者や避難者、復興関係者、支援者等との交流活動等の取組
- (2) 地域の復興を考え、県内や他県、海外等へ復興をアピールする取組
- (3) 地域の将来を見据え、地域活性化を実現する取組

補助事業者

市町村、国公立学校、PTA、NPO等

〈補助上限額〉

- 事業1 50万円
- 事業2 300万円
- 事業3 300万円

※補助金は、補助対象経費の8/10以内、または上限額どちらか低い額。
 ※左記経費とは別に海外渡航費を100万円を上限に補助します。

1

ふくしまの元気を届ける体験事業

- 子どもたちが被災者や避難者との交流を通して、元気を創出する活動

- 例
- ・ 地域で今なお避難生活を送っている方々とお互いの地域を紹介し合ったり、昔遊び等をしたりする交流活動
 - ・ 被災地域の畑と一緒に農作業を行い、収穫した野菜を用いて、地域の方々と調理や交流会を開催するなどして、元気を届ける活動 等

2

ふくしまの今を発信体験事業

- 地域の復興を考え、県内外で被災地の現状等について伝え、震災の風化を防止する活動

- 例
- ・ 被災地を訪問することで、震災の教訓を日々の防災へ活かし、復興の状況とともに県内外へ発信する活動
 - ・ 震災からの復興の状況を歌とともに県内外でアピールする活動
 - ・ 地域の復興状況を学んだ子どもたちが中核となり、地域活性化イベントを企画開催する活動 等

3

ふくしまを創る起業体験事業

- 地域の将来を見据えた地域活性化の取組を実践することでふくしまを発信する活動

- 例
- ・ 地域産の野菜を用いた献立を考え、弁当の試作品を模擬販売することで、地域の強みや食の安全をPRする活動
 - ・ 生徒が模擬会社をつくり、地元の特産品を使った6次化商品の開発・模擬販売を行い、人材育成も行いながら、特産品のPRをする活動 等

アクティブ・ラーニングを実施

復興を教材とした課題解決型学習

育成したい資質・能力

- | | | | |
|-----------|-----|-----|-----|
| 地域への誇り | 自立心 | 創造性 | 社会性 |
| 困難を乗り越える力 | 実行力 | 郷土愛 | |

自己肯定感の高まり

✦ 新生ふくしまを担うたくましい子どもたちの育成 ✦

✦ 福島ならではの教育として全県で推進 ✦

事業実績

令和2年度 採択団体 29団体

- 〈事業1〉 3団体
- 〈事業2〉 22団体
- 〈事業3〉 4団体 となりました。

事業名

大熊町の人々とともに生きよう

会津支援学校高等部
2学年

事業概要

会津若松市で生活している大熊町の避難者との交流を通して、震災の知識や理解を深める。自分たちが作業学習で学んだ能力や技術を生かし、大熊町の風土も取り入れた製品を製作し大熊町の方々へ元気とともに届ける。

取組内容

- 1 大熊町や震災について話を聞いたり、調べたりしながら理解を深めた。
- 2 大熊町の方々に喜んでもらえることを考え、プレゼントを製作した。
- 3 大熊町の方々の話を聞く会、大熊中学校生徒とのリモート交流会、大熊町の方々との交流会を行った。
- 4 活動を通して「ともに生きること」について考えた。



この事業のポイント

相手を思いながら仲間と力を合わせ取り組むことで、人を元気にすることができ、自分たちも元気になることを学ぶことができた。震災から10年経っても辛く苦しい思いをしている大熊町の方々との交流は、どんな困難があっても前を向いて生きていくことの大切さを教えていただけるよい機会となった。

事業名

都路のよさを知り、今を伝える応援プロジェクト

船高アクティブリーダー
育成プロジェクト実行委員会

事業概要

震災で被害を受けた都路地区において、当時の状況や未だ解消されていない風評被害について学ぶ。地区の農家を訪問し、復興へ向かう苦労や地区への想いを聞き取ったり、一緒に農作業を行い収穫・調理したりする等の交流を通して元気を届ける。田村市唯一の県立高校として、地区の復興に継続して取り組んでいく。

取組内容

- 1 都路町の復興状況の理解：市職員や生産者を講師に招いての学習会
- 2 都路町での体験交流：都路地区へ元気を届ける農業体験
- 3 復興を支援するための情報発信：情報発信の専門家を招いての学習会
- 4 成果発表：校内及び田村市役所での成果報告



この事業のポイント

田村市都路地区に元気を届けるために訪問し、さまざまな場所での実地体験を行い、現場で復興に携わるの方々から話を聞くことで風評被害の現状や復興に向けての取組を理解することができる。加えて今後目標としている地場産品を用いた特産品開発に向けての足掛かりを築くこともできた。

事業名

ふるさと創造・映像教育プロジェクト

ひろの映像教育
実行委員会

事業概要

広野中学校の生徒を対象にした「シネマリテラシー」「メディア情報リテラシー」教育の実践で、映像制作を通して地域の伝統・文化・暮らしについて取材を行い、ふるさとの良さを再発見したり、新たな魅力を創出したりすることを目的とする。

取組内容

- 第1学年：地域の方々に広野町についてのインタビュー活動を通じた地域探究
- 第2学年：広野町の魅力をパンフレットにし、映像化したデータをYouTubeで情報発信
- 第3学年：これまでの探究を生かし広野町の課題解決のためのアイデアを考え、提案するとともに、新しい産業の魅力化を図る映像を作成



この事業のポイント

この事業のポイント

生徒たちが「ふるさと広野」のよさを再発見し、未来に向けて歩み出せるよう、自ら進んで地域の方々とかかわり、自ら考え、創造する活動を推進している。また、大人にはない「中学生ならではの“感性”」を生かし、友だちと試行錯誤しつつ、外部講師や地域住民とかかわりながら、活動を創り上げることができる。

事業名

アンスリウム 福田KIDS PR大作戦

川俣町立福田小学校

事業概要

- 福島市や川俣町におけるアンスリウムの認知度を調査する。
- 川俣町を知ってもらうためのPRの方法を再検討する。
- アンスリウムの栽培に関わり、北海道栗山町に川俣町の復興をPRする。
- オリンピックの野球・ソフトボール会場を飾る花の採用に向けて働きかける。

取組内容

- 福島市や川俣町でアンスリウムの認知度をアンケート調査、校内での栽培
- 北海道栗山町立継立小学校とリモート交流学習を行い、アンスリウムと川俣町の復興をPR
- 「道の駅かわまた」や商業施設「とんやの郷」でパンフレットやポスター設置でPR



この事業のポイント

この事業のポイント

放射線の影響を受けないポリエステル培地を使ってアンスリウムを栽培することで、栽培の大変さを実感するとともに復興にかける地域の方々の思いや願いをより強く感じることができる。また、北海道栗山町立継立小学校とのリモート交流でも、住む地域は違っても、故郷を思う気持ちは変わらないことや、互いの地域を尊重することの大切さを感じることができる。

事業概要

田島祇園祭屋台歌舞伎保存会では、地域の伝統芸能を活かし、地域の方や避難されている方、そして県内外の方々に元気を届けたいという思いから、町立田島小学校の児童を対象に「総合的な学習の時間」で歌舞伎の稽古を行い、避難されている方々を招待して、「子どもたちの熱演で地域に元気を」をキャッチフレーズに、歌舞伎の公演を行い、併せて県内外の方にふくしまの復興・元気を発信する。

取組内容

- 9月：歌舞伎の稽古開始
- 10月：田島小学校学習発表会で3年生が地元の屋台歌舞伎について発表
- 12月：第8回田島祇園祭屋台歌舞伎特別舞台公演開催



この事業のポイント

800余年の伝統を誇る会津田島祇園祭での屋台歌舞伎を継承するため、地元の小学校で歌舞伎の授業を実施している。また、歌舞伎を通して協力することの大切さを学び、献身的な心を育み、メリハリのある生活に繋げている。南会津町の中世の山城「鳴山城」を題材とした、ここでしか観ることができないオリジナル歌舞伎作品も取り扱っている。

事業概要

ふるさと国見町に愛着を持ち、東日本大震災後の国見町を学び、学年の異なる児童生徒や地域等との元気を発信する交流活動を通して、自ら考え、自ら判断し、自ら行動を起こすことができるジュニアリーダーを育成する取組み。今年度は国見町立国見小学校6年生4名が計14回活動した。

取組内容

体験活動が制限される中でも、町の震災時と復興の姿を学び、国見町の元気を動画やポスターにまとめ発信し、復興をアピールした。また、県内の震災について「東日本大震災・原子力災害伝承館」を見学し、アテンダントスタッフの「思い」を聴いたり、放射線・環境再生について「環境再生プラザ」の出張講師の支援を受け学んだりした。国見町が友好交流協定を結ぶ岐阜県池田町の子どもたちとは、ZOOMを活用した間接交流に取り組んだ。



この事業のポイント

活動が制限されたコロナ禍の中でも、子どもたちは福島県と国見町の震災からの復興状況をアーカイブ施設で「震災学習」として学んだ。その後は、遠方の団体とのリモート交流など工夫しながら学び、調べ、発信することができた。

事業概要

「全国へ福島は今までと、これからを具体的に発信する」ことを目的に、実現すべく努力していく。新型コロナウイルスの影響により歌による発信が難しい場面があり、合唱団としての本分である歌と同時にやってきた「震災学習」を表現の中核として、さらにそれを形にし、歌に添える形で福島の今を県内外に発信する。

取組内容

福島の今を効果的に発信する方法を計画立案した結果、①プレゼントボックス作成送付、②ライブ配信、③震災学習コーディネートマップ作成、④震災10年祈念絵本「群青-あお-」作成等を実施。作成した絵本を各地へ積極的に送付したり、活動で使用したりする事により、震災の様子や復興について意識的かつ効果的に発信した。



この事業のポイント

音楽を中核とした各活動を通じて、子どもたちの発する問題提起により、大震災のもつ生活への影響、子どもたちの人間関係への影響等を見る人に考えさせ、少しでも風化を防ぐ効果とともに、子どもの目線で見て聞いて、福島の震災の根深さを知り、震災を自分のものとする契機になり、自分の言葉で発信できるアイデアと心の成長が期待できる。

事業概要

自分の興味関心から県および郡山市が抱える震災復興等をはじめとする課題を理解し、地元企業等と連携しながらその解決策を考える。また、それを生徒個々がプロジェクトとして、地元企業や住民と連携をしながら実際に行動に移すことで、県における課題を解決するためのアクションを行い、HPやSNSを用いて発信する。これらの活動を通して、県の身近な課題の解決に向けてアクションするような次世代の人材の育成を目指す。

取組内容

- 1 一年間を通して福島県における課題解決するためのアクションを行い発信
 - 2 地元企業によるアイデアワークショップの実施
 - 3 探究成果発表会
- * その他にも個々にアクションを行い、活動の成果を県内外に発信



この事業のポイント

テーマを企業からいただいたり、成果報告会で地域住民、さらにはOB、OGを招待したりすることで、今後の協力者やサポーターになり得る地域コミュニティの創出とそのマッチングの場へつながる。その結果、将来的な就労、さらには福島を担い地域に貢献し続ける人材の育成や輩出に結びつく。

事業概要

震災から9年が経過し、人々から震災の記憶が薄れていく中、ふくしまのこれからを担う子どもたちが、ふくしまの今を伝える活動体験と情報発信をすることで、子どもたちが自ら考え、判断し、震災の記憶を心に刻む。ふくしまの農業×子どもの体験活動×テクノロジーが掛け算されることで、地域を、そして全国を巻き込んだムーブメントを起こし、全国に向けて震災後の福島県の復興を効果的にアピールする。

取組内容

子どもたちの農業体験の様様をテクノロジーの力を使いYouTubeで動画配信を行うことで、子どもたちの活動をリアルタイムで視聴でき、震災と原発事故の二重苦から復興を遂げている「ふくしまの今」を全国に向け発信した。併せて、収穫した農産物の販売体験も行うことで、どのようにして私たちの手元に届くのかも知ることができた。



この事業のポイント

この事業のポイント

子どもたちの活動の様子をリアルタイムで視聴できることが最大のポイントである。撮影機材のセッティング、実際の配信作業も子どもたち自身が行う。すべてを大人が準備するのではなく、子どもたちの実現する力、チャレンジ力を育む事業である。

事業概要

震災で津波や原発事故で大きな被害を受けた相馬地区を訪問して、震災の経験から学んだ教訓を理解し、生命の尊さや互いに助け合うことの大切さを実感し、自然災害への備えとして必要な知識と実践力を具体的に身につけることで、主体的に地域の防災に役立てようとする。また、成果をYouTubeやFacebookで広く県内外へ発信し「ふくしまの今」を届け、震災の教訓を風化させずに防災教育の関心を高める。

取組内容

自然災害等の基礎学習の後、相馬地区を訪問して、震災による津波被害と原発事故避難の経験等の講話から教訓を学んだり、施設見学を行ったりした。校内文化祭では、震災の教訓と地域の防災対策から学んだ成果を発表したり、地域住民と連携して本校体育館を避難所とした避難訓練を行ったりした。文化祭での発表動画はYouTubeで、防災学習の様子はFacebookで発信し、ふくしまの今を広く県内外の人々に伝えた。



この事業のポイント

この事業のポイント

東日本大震災の被害が大きかった相馬地区を訪問して、被害の大きさから得た教訓を学ぶことにより、興味関心を高め、居住する喜多方市の防災教育に生かすための学習につなげることができる。学習の成果はインターネットを介して、復興の現状や経験から学んだ教訓等を「ふくしまの今」として、県内外に発信した。

事業概要

化学部はこれまで、原子力災害からの復興を目指した研究活動や各大学などからの協力を得ながら原子力災害からの復興についての「今」と「未来」を発信してきた。こうして培われた研究力や発信力を活かし、「震災からの復興」に視野を広げて理解を深め、復興への「今と未来」や研究成果を発信することで、若い力による取り組みをアピールするとともに、主体的かつ創造的な解決能力と豊かな表現力の育成を目指す。

取組内容

- 1 震災からの復興の今を理解する：富岡町、相馬市といった被災地域を見学し、震災からの復興の今を学ぶ。
- 2 復興の今を県外に伝える：オンラインやコンテストを通して、復興の今を県外に伝える。
- 3 震災に関する研究活動を実践する：「土壌中の放射性セシウム除去法の検討」など、いくつかのテーマで研究活動を実践し、成果を発表する。



この事業のポイント

化学部で培われてきた研究力・発信力、高校生という若くパワフルな力で、震災から10年を迎える福島復興の今を知り、県外へ伝え、復興を加速させる研究活動を実践することで、自らが解決の一端に関わることができる。

事業概要

- 下郷町の大内宿を中心に、県内において震災を乗り越えてたくましく生きる人々の姿や、地域・産業の復興の現状を自分たちで調べる。
- 調べて分かったことを愛知県豊橋市立羽根井小学校の6年生に伝え、福島復興の現状や魅力を広げる活動に協力してもらう。
- ふるさと福島に誇りをもつことができる。

取組内容

- 1 第三小学区及び大内宿などで、復興の現状や福島の魅力についての調査活動を行う。
- 2 羽根井小学校の6年生とオンラインで交流し、お互いの地域について伝え合う。
- 3 福島の魅力を発信するリーフレットを作成・送付し、交流を通じて豊橋市内で福島復興等を伝えてもらう。
- 4 福島復興大使の小豆畑咲季さんとオンライン交流を行い、福島未来について語り合う。



この事業のポイント

「私たちのふるさと福島復興の現状を知ってほしい！」そんな熱い思いで、子どもたちは、自分たちが住む第三小学区や県内有数の観光地である大内宿で調査活動に取り組んできた。多様な人々と関わりながら復興について調査する中で、子どもたちは、「人の温かさこそが、福島の魅力だ！」と確信し始めている。オンラインを活用して他県の小学生と交流すること、調査先の区長さんや商工会議所会頭さんなど、その道の達人と呼ばれる「本物との出会い」が、本事業のポイントである。

事業名

「ふるさと堂島じまん健康弁当」作成プロジェクト

喜多方市立堂島小学校
父母と教師の会

事業概要

地域の起業家と連携し、自分たちが育てた新鮮で豊富な野菜を生かし、栄養バランスに考慮したふるさと自慢弁当を作成しそれを売り出す。販売においては、食の安全性や弁当のメニュー、さらにはふるさと堂島の魅力が入ったPRチラシやパッケージなどを作成する。

取組内容

- 1 商品開発する場合の心構えの学習を踏まえ、ふるさと自慢健康弁当のレシピを考える。
- 2 ふるさと堂島のよさや特色を見だし、それを基に、PRチラシやパッケージを作成する。
- 3 できあがった弁当を、地域の方々に販売する。



この事業のポイント

この事業のポイント

子どもたちが、ふるさとの宝物を発掘し、地域の方々と連携協力して「弁当」という形で表現することで、地域活性化の一端を担うことができた。

事業名

高校生による 広域的な地域の課題解決・魅力発信プロジェクト

特定非営利活動法人
相馬はらがま朝市クラブ

事業概要

福島の今を自分たちの手で発信しようと取り組む高校生が、福島の産業や文化に対する理解と興味を広げ、地域や人の課題解決に対して自ら動き働きかける力と創造及び創発することの面白さを会得することを目的とし、これからの福島の復興を担う次世代育成につなげる。具体的には、若者とアスリート向けの魚の加工品を開発し、その販売と情報発信を通じ、福島の魚を日常的に食し、福島をより身近に感じてもらえるきっかけをつくる。

取組内容

- 1 試作品開発や情報発信等にかかる講座の受講によるスキルの獲得
 - 2 水産関係者等との商品開発企画会議、試作品にむけた試食モニターイベント、試作品販売交流会の実施
- * 試作品「FISH PROTEIN」：県産ヒラメと地元相馬市の味噌・塩麴のシンプルな食材と食べ応えにこだわり開発。



この事業のポイント

この事業のポイント

地元・相馬市の生徒たちが「浜通りの魚なめんなよ」と故郷に愛着や風評被害の悔しさを持ち、友人や後輩、地域の事業者を巻き込みながら、実現に向けて走っている姿をぜひ見ていただきたい。他者からの評価を得る機会と、地域の事業者との相談や交渉機会を増やすことで、生徒が幅広い人脈を獲得し、地域や社会の理解を深めながら行っている。



そう だい

山川 蒼奈さん [団体名] 国立大学法人 福島大学



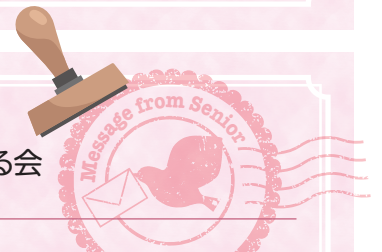
私たちは、東日本大震災当時は小学生でした。大人たちが復興復旧のために忙しくしている中で、何もできませんでした。むしろ何もしないことを求められていたと思います。しかし、自分も何かの役に立ちたいという思いはありました。高校生となった今、最初から否定的に考えるのではなく、できる方法を考えること。そこから自分の成長、身近なものへの影響、そして社会の発展につながると感じています。

東日本大震災から復興した現在の福島の魅力を深く学び、そして伝えるために、私たち高校生が主体となって、企画から広報、運営を行う、「福島市高校生フェスティバル」での学びを活かし、今後も主体的に社会に関わっていきたいと思います。



まり な

伊藤 万里奈さん [団体名] 子どもに音楽を贈る会



私は震災後、神戸・新潟・宮城等の方々苦しみながら前に向かう考え方に接しながら、福島の現状を踏まえ自分にできることを考え、想いを歌や劇に込めて表現し、各地の方々と交流してきました。その中で印象に残るのは、新潟県長岡市旧山古志村が震災の後、他地域の助言により現存している野菜や鯉養殖、闘牛の伝統に改めて価値を見出し、職業を再構築することで若者の流出も減少させている現状を知ったことです。それは、私のこれからの福島について考える基礎になっています。

道のりは長いですが、震災後多くの方々の生き方に振れることで、前述した大きな考えの下、草の根的活動の持続が福島には必要であると考えています。今後も様々な考えに触れ、できることを積極的に、そして確実にやり続けていこうと思います。



学んだこと ～震災から10年、これからのふくしまのために～

大学生

ゆま
大槻 夕真さん [団体名] ふくしまバトン
*令和元年度 採択団体



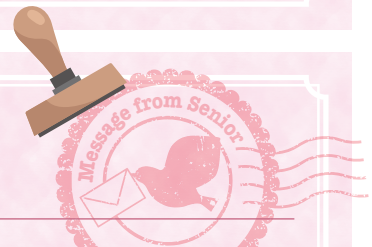
震災後、岡山大学のボランティア団体「おかやまバトン」の学生さんが、私たちが岡山へ招き、稽古場の提供と現地滞在中の生活支援をしてくださいました。皆さんとかがわる中で、私たちがいつか支援する側になりたいと思い、「ふくしまバトン」を立ち上げました。そして、本事業へ応募し、福島のことを伝えるために県内外で交流・発信をしたり、同じように地震や豪雨災害で被災した「熊本の中学生」や「おかやまバトン」の皆さんを福島へ招いたりしました。

事業を通し、様々な人に出会い、団体の取組である「日本舞踊」とともに、震災や復興にかかる自分の想いを伝える場をたくさん与えていただきました。これからは辛い震災を乗り越えた福島で生きる事に誇りをもち、震災を知らない多くの子どもたちにも、日本舞踊の魅力を伝えながら、「福島震災と復興」と「自分たちの想い」を国内外に向けて、さらに発信していきたいと思えます。



社会人

横山 多恵さん [団体名] MJCアンサンブル



私たちは震災当初より日本全国の皆さん、世界中の皆さんに応援していただきました。小さな街の小さな合唱団を新聞やメディアを通して知り歌う機会を与えて下さった方々に改めて感謝いたします。震災をマイナスに捉える方もいらっしゃると思いますが、ステージで歌えることのありがたさや、色々な土地で歌うことは、この震災がなかったらできなかったことと、今ではいい経験をさせて貰ったと思えます。

私は医療職として働いてもうすぐ5年目となります。私にできることはまだまだ少ないですが、「チャレンジ!子どもがふみだす体験活動応援事業」をはじめ、団員として活動に参加できた、10年間の恩返しのため日々感謝しながら今後も仕事を続けていきます。

現在、全世界がコロナという未知のウイルスと闘っていますが、感染症対策を徹底し、各団体のみなさんには、今後も「ふくしまの未来」のために活動を継続してほしいと願います。



今年度もたくさんの子どもたちの想いが実りました。



被災地を訪問し、当時の状況や復興の現状の視察等を行い県外へ発信



地元の魚を使った試作品の販売に向けたモニター交流会の実施



大分県佐伯市の芸術祭に参加し、交流・物販を通し復興をPR



県外観光客に向け、復興状況に加え、福島や地域の魅力をPR



被災地での飯豊権現太鼓披露、チラシ配布による元気発信・地域をPR



シイタケ栽培の収穫体験等を通じ、風評からの復興をWeb配信



機材の操作方法を学びながら、交流先等へ福島の復興・元気をライブ配信



伝統芸能の「人形操作」をオンラインで披露・交流し、福島の魅力を発信



地域連携型の防災訓練へ参加し、活動の様子をFacebookで県内外へ発信



地元の6次化商品開発の関係者を前に、企画商品の発表会を開催



岩手県大船渡中学校との合唱交流を通じ、復興と伝承への思いを共感



ドラマ「エール」のつながりで、愛知県豊橋市の小学校とのリモート交流

子どもたちの活動を支えてくださった皆さん、
ご協力ありがとうございました。